

関東ふれあいの道(栃木)⑱雲流れる桜花のみち

2024年11月18日池内淑皓

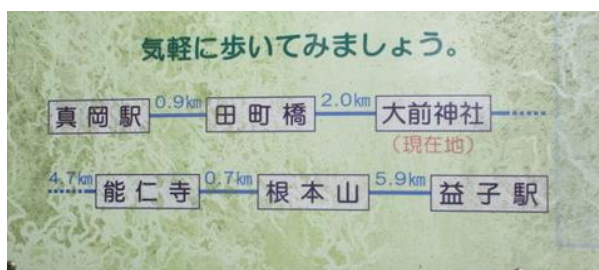
2024年9月11日(水)晴れ暑い。昨日はコース⑰を歩いて真岡に到着、真岡のホテルに泊まった。
今日は、午前中に「⑱雲流れる桜花のみち」を歩き終えて、下館から小山駅に出て、宇都宮線の小金井駅から「⑮ゆうがおのみち」を歩く予定にしている。効率よく歩くには忙しい一日になりそうだ。



関東ふれあいの道案内板は、駅構内にはなく、町はずれの五行川の畔にあった



「⑱雲流れる桜花のみち」行程図 今日のお目当ては、根本山かな



コース図で見ると 14.2km であるから、ホテルを早く出れば、午前中に歩き終える



真岡市は、江戸時代 春日局の夫君「稲葉正成」が藩主であった
真岡線は、昭和の頃は国鉄であったが、過疎となり民営となった。目玉としてSLを動かし、何とか命脈を繋げている。
駅舎も子供たちの夢を誘う。



真岡市街を抜けると、五行川に出るから、ここからサイクリングロードを北に向かう



途中から右岸へ渡り一時間程歩くと



延喜式の古刹「大前神社」に着く。創建は神護景雲年間(767~770)と伝える



祭神は大国主の命。本殿(桃山時代)がひとときわ美しく、見事な彫刻が目を奪う 鳥居、灯籠等は国指定重要文化財である



本殿、拝殿も平成30年に重文に指定と付箋が張ってある



「大前堰と穴川用水」正徳2年(1712)古文書で二宮尊徳が普請をしたと記し、文政10年(1827)には、537本の用材を用いて、大修繕をしている(国文化財)(神社の隣に五行川が流れている)



「大前の堰と右側の穴川取水口」ここから桜川集落へ水を通し、コメの収穫を飛躍させた



門人たちの建てた記念碑



五行川を外れ、集落を通り抜けると



稲穂が垂れる田圃道に出る。関東ふれあいの道石標が立てかけられている



これから向かう「根本山(165m)」「頂上の鉄塔」ぐるりと右から回り込むように歩いて行く



能仁寺入口



寺は無人、かつては鎌倉円覚寺派の十刹に入る程の大寺であったと伝える



お寺の脇から根本山(165m)に向けて、桜並木の中を歩く



根本山頂上到着、暑い！ ここには自然観察センターが設置されているから、トイレと一休みには丁度良い



下り道も桜が植栽されており、春には今日のお題「雲流れる桜花のみち」にピッタリだろう



一気に山を下ると、集落の入口に「瑞光寺」がある
貞観2年(860)慈覚大師により、円仁天台宗のお寺として開山。鎌倉時代に焼失した



しばらく田圃道を歩き、小貝川沿いに北に向かう。12:08 発の電車に乗りたいたので急ぐ



12 時 03 分益子駅に到着、これで下館行き電車に乗れる。



この電車を逃すと、1 時間も待つから大変、昼食は電車の中だ

[参考タイム] 真岡駅(7:22)→大崎神社(8:17-8:24)→能仁寺(10:05)→根本山(10:20-10:25)→
瑞光寺(10:50)→益子駅(12:03-12:08)

この項完

「関東ふれあいの道(栃木)①9焼き物としいの木のみち」に続く